

中学2年1組 美術科学習指導案

指導者 山 根 舞

はんこを用いて伝えたい思いをあらわすために相手や場面を意識して表現する活動において、デザインの構成美をいかした模様や色、配置などをグループや学級全体で話し合い、試行錯誤する場面を設定したことは、よりよいデザインをつくりだすことに有効であったか。

1 題 材 名 　　くらしを彩る模様を考えよう

2 題材のねらい

くらしの中にある身近な美しい模様の効果を感じ、相手や場面を意識することを大切にしながら、はんこを用いた構成をいかし、その形や色、配置について話し合い、デザインをつくりだすことができる。

3 授業の構想

(1) 次の文章は、「ワンポイント自画像を描こう」の授業後のふりかえりである。

自分の描いた顔を人に見せるのは恥ずかしかったけど、鑑賞のときに、友だちにまつ毛まで細かく描いてあってきれいだねと言われて嬉しかったです。グループの人の絵も、線に勢いがあったり指でこすった柔らかい肌にしていたりして、一人一人の雰囲気が出ていて面白かったです。(生徒A)

この記述からも分かるように、「似ている」か「似ていない」の判断基準ではなく、自己を見つめ、人との違いを認めたり、その中でのよさを讃えたりする姿が見て取れる。生徒Aは、奥二重から生えるまつ毛の構造を知るために何度も瞬きをして観察している。また毛の一本一本にも光が当たっていることに気付き、先を尖らせた消しゴムで消して光を表現するなど、表現の技能も高めていた。そして、互いに評価し合うことによって表現方法や取組のよさを認め合うことができた。喜びを感じながら「もっとこうしたい」という、意欲を高めている様子が見受けられた。このように、手先の巧緻性など技術面の向上に焦点化するのではなく、自分らしい表現の追求を目指していきたい。

「作品は自分の分身」という考えに立って作品を鑑賞するとき、思春期の子どもの豊かな感性をいかして作品を鑑賞することは、自己の表出・認知に他ならない。自分や仲間の表現と向き合うことで、他者とのかかわり合いの中で感性を働かせ、以後の造形表現を広げることが期待できる。

(2) 本題材は、相手に思いを伝えるための包装紙をつくり、その紙で物を包む。包装紙には、消しゴムの版を用いて形や色を創意工夫した模様を押す。模様にはそれ自体で人を引き付ける魅力があり、見る人に何をあらわしているのか伝えるためのデザインでもある。例えば日本には、古くから手ぬぐいや風呂敷といった伝統的な美術作品ともいえる優れたものがある。これらは一つのパターンを繰り返し用いることによって構成される。したがって、表現するための素材をはんこにすることで繰り返し押すことが可能になり、それによって生まれる構成美を味わうことができる。そこには美しさや面白さがあり、デザインの基礎的な技能とも合致する。また、包装紙で丁寧に包んだり相手にしか中身が分からないように封筒へ手紙を入れたりする心の文化とも言える風習もある。包装紙や封筒は相手に物を贈る際に、思いがより伝わるような手助けとなるものである。

本学校園図画工作・美術科として願う豊かな学びの一つに、「表現テーマに向かって願いをもち、自己の造形表現を高める姿」がある。そこで、子どもが自分の表現に自信をもち相手との関わりの中で互

いを認め合う姿や、確かな願いをもち発想や構想を見つめ直し、新たなアイデアを獲得しながら、よりよいデザインをつくりだそうとする姿を大切にしていきたい。

- (3) 本題材は、第2・3学年の目標(2)、内容A表現(2)、B鑑賞(1)に即している。A表現(2)については、多様な模様に出会えるようにしたり、形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解したりする。豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する子どもの姿を大切にしたい。

導入時では、生徒が持ち寄った包装紙をグループや学級で分類し、規則性や特徴、その美しさに気付けるようにする。また、「配色の工夫」や「構成美の要素」などについて、効果や美しさを感じ取れるように模様の資料を多数提示する。そして、思いをあらわしたい相手を意識し、「父への誕生日プレゼントの本をラッピングしたい」や「転校した親友へ手紙を書きたい」など、「誰に、どのような思い」を伝えたいのか、そしてその思いを「どのような場面で、何を、どうやって」あらわすのかをワークシートを用いて願いを明らかにする。

本時では、つくったはんこを押しながら説明したり相手のものを押したりして、グループでの話し合い活動をする。そこで改めて表現テーマを照らし合わせることによって、子どもたちが自分の思いに沿った作品をつくるためにはどうすればいいのかという問いをもつことが期待できる。「つくったものをさらに工夫してよいものにしたい」という願いをもって見合うことで、自分や友だちが何をあらわしたいのかを知り、よりよい表現方法を明らかにすることができる。

教師は、子どもとかわり合う中で子どものしたいことは何か、本当にそれでよいのかといった問い直しや、なぜそうなったのかという子どもの考えを掘り下げていくはたらきかけを行う。また、問いに向き合い、どのようにしたいのか提案するはたらきかけを行う。自分の考えと向き合うことで問いが明確になり、作品制作への意欲を高める姿が期待できる。

作品完成後に鑑賞会を行い、作品について、「特にここを見てほしい」という創意工夫した点や努力したことなどをグループのメンバーに紹介し、互いの作品に対する感想などをメッセージとして贈り合う。友だちの作品のよさを味わい、互いを認め、讚え合えるような姿勢を育てていきたい。そして、「もっとよくしたい」や「学んだことをいかして、次はあんなこともしてみたい」といったさらなる願いをもち、造形表現を熱心に追求しようとする子どもの姿が期待できる。

4 展開計画（全9時間 本時5／9）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	さまざまな模様を味わおう。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・配色の工夫を確認し、資料をもとに、さまざまな模様を知る。 ・模様の資料を見てグループで話し合い、模様には連続や規則的なもの、不規則なものなどがあることを理解する。
	思いをあらわすための模様を考えよう。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な形であっても、色や配置で変化に富んだ制作ができることを確認する。
	くらしを彩る模様をつくろう。	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・消しゴムやデザインカッターの特徴と使い方を理解する。 ・はんこの形を整え、スケッチブックに一色のインクで試し押しを繰り返す。
2	作品をよくする工夫をしよう。	⑤・6	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ（4～5人）ではんこの形やあらわしたい思いを踏まえて構成について話し合ったり、実際に押したりする。 ・グループ鑑賞をもとに、はんこの色や形をいかした配置を考えながらスケッチブック見開きの両面に押して作品を制作する。

3	作品を成形しよう。	7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えや迷いが生じたときは、グループで相談しながら制作する。 ・両面のどちらかを選び、思いをあらわすものに成形する。
4	作品を味わおう。	9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ（4～5人）で鑑賞し合い、メッセージを交換する。 ・制作を振り返り、ワークシートにまとめる。

5 本時の学習

(1) ねらい

はんこを用いた構成について話し合ったり試したりすることにより、グループで制作意図や思いを共有し、形や色、配置、包んだ時の見え方などの発想を広げたり深めたりしてこれからの自分の作品づくりにいかすことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 包装紙には形や色、配置など様々なものがあり、相手に思いをあらわす手助けとなるものであるという、これまでの過程について振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分の考えた模様について伝え合って、作品づくりのヒントを見つけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・はんこで模様をつくる意図や考えを、ふりかえりを用いて確認し、活動の方針を明らかにする。
<p>2. 自分の思いや考えをもとに模様についてグループ（4～5人）で伝え合い、スケッチブックに押し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日の父に感謝の気持ちを込めて贈り物をしたから、暖色を使いたい。 ・違う色を重ねて押すと色が混ざって面白いから、はんこの一部を削り取ってみたい。 <p>3. 学級全体の間での発表を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分では思いつかない発想で、自分の作品にもいかせると思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてそう考えたの」のように問い返し、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。 ・発表者へ感じたことを伝え合うことによって、感じ方の違いや表現の広がり気付いたことを、自分の作品にいかすように促す。 ・「貰ったらどう思うかな」と相手の立場で想像するように問いかける。 ・子どもの願いに応じながら学級全体に広げたり、個の追及に返したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">—— 評価の観点（発想や構想の能力） ——</p> <p>構成について話し合ったり試したりすることにより、グループで制作意図や思いを共有し、構成の発想を広げたり深めたりすることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法：発言・作品・ワークシート】</p> <p>支援</p> <p>デザインのもつよさを踏まえ、思いをあらわすために、友だちの作品から構成のよさを参考に促す。</p> </div>
<p>4. 本時を振り返り、ワークシートにまとめる。（思いをあらわす模様について、改めて考える。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイデアが友だちに伝わって嬉しかったし、自信がついた。 ・自分の考えていた色合いだと、人は冷たく感じるようなので、友だちのアドバイスを取り入れてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日、得たものを教えて」と問いかけ、自分の考えに自信をもったり、新たな問いに気付いたりしたことなどをワークシートに記入し、自ら問いをもつことのよさを認める。

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎グループでの話し合いを通して、自分の意見を伝えたり相手の助言を取り入れたりして、はんこの形や色、配置などを考え、自分のあらわしたい思いに沿った模様を見付け出そうとする姿